

校長だより

福津市立福間東中学校

校長 猪股 清貴

平成 27 年 9 月 11 日 No24

「ありがとう」をお伝えしたくて…



昨日、5時過ぎのことです。職員室に温かい電話がかかってきました。内容は次のようなことでした。

「9月9日の夕方のことです。新聞配達途中、雨の路面で滑って動けなかった私に優しく声をかけてくれた二人の男子中学生。彼らは雨の中、ずぶぬれになりながら坂の上までバイクを押し上げてくれました。お名前を聞き忘れてしまい、きちんとお礼も申し上げる間もありませんでした。

東中学校の生徒さんです。御礼だけでも申し上げたくてお電話しました。」

電話を受けた先生が本当にうれしそうに校長室に報告に来てくれました。この二人が誰だかは分かりません。でも、この福間東中学校の中にこんな素敵な生徒がいると思うだけで心の中がほっこりとしてきます。報告に来てくれた先生が、こうおっしゃいました。「こんな電話を受けると元気が出ますね。」

きっとこんな素敵な生徒はたくさんいます。見えないところで、ゴミを拾ってくれている人。朝早く来て教室の空気を入れ換えてくれている人。欠席したクラスメートの机を見ながら、大丈夫かなと心配してくれている人… 今東中ではたくさんの生徒に元気をもらっています。

「ふ～っ 肩が凝った！」

上記の言葉は1時間の美術の授業が終わった瞬間、聞こえてきたつぶやきです。一緒に参観した私も同じ思いでした。なぜなら、50分間先生の熱い授業に集中して聞き入っていたからです。

今日は8時間計画の3年生の陶芸の授業の1時間目です。土を素材とする「碗づくり」に取り組みます。本時の目標は素材である「土」を知ることです。宮沢賢治の授業から地球のマグマの話まで世界は広がっていきます。生徒は頭を上げたまま先生の話に聞き入っています。



私自身も「陶器」と「磁器」の違いについて学習する場面では、思わず身を乗り出して聞いていました。そして、長年疑問に思っていたことがこの授業ですっきり解決しました。家にある器を見る目が少し肥えたような気がします。「肩が凝った！」とつぶやいた生徒もきっと授業に集中していたに違いありません。

「材を理解しなければ、材を生かすことはできない」という言葉もあります。土を生かし、一人一人の気持ちがかもった碗が出来上がるのを楽しみにしています。